

京都観光アカデミーアワード 発表レポート
福知山公立大学 杉岡ゼミ（観光ルート班）
ふなやの里伊根を中心とした観光ルートの再編

受賞：現地調査がいいね賞

■ 発表概要

京都府北部唯一の大学として、伊根町のオーバーツーリズム問題に着目。交通の危険性と住民生活への影響を調査し、道の駅を核とした観光動線の再編を提言した。

■ 現状分析

伊根町の観光現状

- ・年間観光客数約37万人（令和5年）
- ・住民数に対する観光客数比：191.3倍（府北部最高）
- ・宮津市（天橋立）の165倍をさらに上回る
- ・NHK朝ドラ「舞い上がれ！」放映後に急増

現地で確認した課題

- ・生活道路に観光客が集中し、車との近距離接触が危険
- ・横断歩道・歩道の整備不足
- ・バス内の著しい混雑（天橋立～伊根間）
- ・道の駅から観光案内所への階段が240段・わかりにくい

■ 調査手法

- ・宮津警察署（北川様）へのヒアリング：交通事故の実態と対策
- ・海の京都DMO（亀谷様）へのヒアリング：観光客動向と課題
- ・ヒートマップ作成：混雑箇所の可視化と迂回ルートの検討
- ・路線バス・道の駅への実地調査（階段240段を実際に数えて確認）

■ 政策提言

- ・道の駅コンテンツの充実：へしこ・海藻を活用した体験型お土産づくりの導入
- ・誘導看板の設置：景観規制を考慮した迂回路への自然な誘導
- ・道の駅～観光案内所の動線整備：提灯・ライトで視認性・安全性を向上

■ 今後の課題と展望

重要伝統的建造物群保存地区の規制内での看板設置、道の駅の需要調査、ベネチアに倣った入域税の創設を検討。地域住民・DMOとの継続的な協働が必要。

■ 審査員コメント

「240段の階段を数えるなど徹底した現地調査が実践力そのもの。ヒートマップを用いた誘導策は旅行会社目線でも説得力がある。警察やDMOへの直接アプローチも理想的」（工藤審査員）

